時事新報

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊無し

第二千四百三十九號
明治廿二年十月十一日　金曜日
舊暦巳丑九月十七日（庚申）
日出午前五時四十五分　入午後五時十分
月出午後六時四十三分　入午前七時三十分
飛鳥午前六時三十四分
飛鳥午後六時五十一分

（西暦一千八百八十九年）

時事新報定價
時事新報は一年三百六十五日一日も休刊セズ其代價遞送料廣告料は左ノ如シ
一枚二錢○一箇年前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓○一箇年前金六圓
○時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ遞送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十二錢	十一錢	十錢五厘

月曜日并ニ大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ず此場合は新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に貼用する郵便印紙の代價を申受く可し

時事新報

人種論（昨日の續）

熟ら〳〵文明進歩の次第を觀察し來れば其進歩するや實に有數ある卓識家の力に外ならずして世間一般の衆人は其進歩を利するの外、何事をも爲さゞるのみならず或は其進歩さへも好まずして古來大學者もしくは大發明家は爲めに往々罪死の寃を蒙りたるものもおきさゞるべからず然れども天下後世の人々は皆その恩澤に浴せざるものなし抑も卓識家の此世に出るや決して偶然にあらずして必ず出づ可きの理由あり即ち幾代間の經驗閲歴を其一身に代表して出でたるものなれば吾人が斯る人物の出生を望むは取も直さず世界一般の人類を禱益する所の進歩の出生を望むと同一なる事を知る可し吾人もし不明にして世界人類同等の妄說を迷信せば吾人は自ら第一の犧牲となりて其愚を表白するに過ぎず同等の實は唯是れ劣等の人種間にのみ行はる可きのみ若しも今の世界に同等の說を實行せんとするには是非とも社會上流の程度を引下げて之を最下等のものと同じ平準に歸せしむるの策を取らざる可らず如何となればラヴァセーア（佛國有名の化學家にして同國革命騷亂の折に殺されたり）の如き大學者も斷頭機の一擊を以て一分時間に之れを殺すは容易なれども最下等なる土百姓の智識の度を高めてこの大學者と同等ならしめんとするには幾何の時代を要するや知る可らざればなり然り而して卓識家が文明の發達に禅補する所は實に少なからずと雖も其禅補する所のものは世人の一般に信認する所とは大に異なるものおきゞあらず所謂卓識家の行爲は吾々人類の幾代間の勞力を總合したるものにして又その發明なるものも既に前人が幾回の經驗を積みたる其結果を收めたるものに過ぎず即ち他人の切磨を經たる石材を以て堂宇を建築したるものと云ふ可きのみ古來の歴史家は各種の發明ある毎に其發明者の姓名を記載せざる可らずと想像すれども印刷、火藥、及び電信等の如く爲めに全世界を一變せし勇たる大發明中の其一さへも一人の手に成りたりと云ふものとてはある可らず世の所謂大政治家なるものも亦然り其勢は一時或は社會を破壞し又は其進化を妨ぐるに足る可しと雖も其大勢の方向を變せしむるの力なきゞとはコロンウエル、ナポレオンの智力を以てして猶や其意を達するゝと能はざるを見ても知る可し彼の戰に勝つ者は美術品を納めたる博物館に放火する小兒の如く劍と火と吾人をして其功業の偉大なるを欽慕せしむるに足らず政治家の事業はシーザルもしくはリセリューの如く雖時の急に應じて其力を致すの間のみ維持す可くして而も其成功の原因は早く既に前代の經驗に存するものなり左れば眞實の政治家なるものは後來將に起らんとする必要と前人の豫め注意したる出來事とを察知して之を應ずるの手段を講ずるに在り而して其事とする所は猶は發明家の如く前人が數代間に經驗したる其結果を總合するに過ぎざるのみ哲學者より見るときは世間の歴史なるものは人々その理想を實にし或は之を崇拜し又は之を破壞せんとする其爭の傳記に外ならずして學者の眼に於ては沙漠中の幻影と一般の觀を爲すに過ぎざれども滔々たる凡俗の世界には幻影の製造者も少なからずして而も大に社會の大勢を動かすゞとさへなきにあらず其事業の偉大なるは固より抹殺す可きにあらずと雖も是等の人々とても知らず識らずの間に其同類同代の理想を代表し之を實行したるにあらざるよりは決して彼れが如き成功を得ざりし事あらんのみ故に實際世界の大勢を動かすものは其當代の理想と之を代表する人物との力とを以て其始めは朦朧として空中に浮游する所のものが次第〳〵に其樣を變じ遂に大豪傑大事業と稱する形となりて世に現出するものにして詰り時の理想の幻影に過ぎざれば其事の眞僞、人の正邪の如きは必ずしも問ふに及ばざるゞとなり古來の歴史を案ずるに人の熱心勇氣を鼓勵するものは眞理とおもはるゝて妄想なり妄想なるものは固より一時の幻影に外ならざれども然れども又決して輕蔑す可きものにあらず如何となれば吾々の祖先が敢爲進取、野蠻の境界を脱して今日の地位に達したるも亦ゝの妄想の力に外ならざれば偶り而して吾々人類は其心身を全く眞理の外に處し只管誤認を求むるが爲めに拮据勉勵したるものおれども其求むる所の目的は達せずして却て其求めざる所の進歩をおしたるものと云ふ可きのみ　（完）

雜報

○御產嚴　去る七月以來青山御所の構内に新築中なる御產所は其筋に於て非常に工事を取急き居る由にて晩くも來る十一月中には全く落成する筈なりと又同所には青山御所同樣に電氣燈を點火する筈にて目下取付中なりといへり

○釀造酒改良試驗　農商務省分析課にては從來内地重要の物產を改良せんが爲め先づ其原質より分析して成分の如何を知り續て其改良方案を立て一般の實業者にも由田に宿泊せんとするものおれば旅店と云ふ旅店は指示する筈にて師に陶瓷器の原質を調査し實際成蹟を顯はしたるゝとなるが尙ほ又近來に至りては醸造酒の改良法に就き米穀及水分の分析試驗を始めたり右に述べき擬當技手は先年攝州西ノ宮に出張し其地に於て釀造に使用する水及米穀を集めて歸京し專ら其の試驗に從事し居たるに最早や之に適當の水丈けは分析術に依りて其成分明瞭となりたれば人造にても之と同一樣の水を製するゝとを得るに至りたれ共米穀に至りて未だ試驗の成蹟不充分なる處ありて直に之を明言するゝと能はざるも先づ酒の眞香は米穀の善惡に依らざるやの見込みもありと云ふ

○京都大坂間郵便速配達法　新橋停車場を午前六時十分に發する列車に搭載する郵便物其他新聞雜誌の類は同日午後十一時二十分京都の七條停車場に着するも京都以西に配達すべき分は翌日午前六時四十五分同地發の一番列車にて大坂及び神戸に運送するの不便あるより過日來淀川汽船會社に於ては京都に着後直に汽船便を以て運搬せんとの計畫を爲し大坂郵便局へ出張中なりし事は曾て本紙にも記載せしが其後同局より本省へ稟議せし處此程遞信省より官吏を派出し同局及同汽船會社に就き其方法等を取調べし末假命令書を下付したる由なれば近日本命令書を下渡して實行するゝあらんと云ふ其方法の大要を聞くに汽船會社に於て郵便物運車五六輛を造り毎夜十一時二十分七條停車場に於て郵便物を受取り十二時迄に伏見に着し直に解纜、大坂に直行する時は月夜は三時間、暗夜は四時間にて大坂東照八軒屋の大坂郵便電信局の岸に着船すれば之を翌日午前六時四十五分京都發一番列車にて八時十七分大坂に着するものに比較せば四五時間は速達する割合なれば頗る便法と云ふべし又京都より神戸に送る郵便物も同樣にして京都の一番列車にて送る時は神戸着は午前九時二十分なるも右の汽船便を依り一旦大坂に引取り六時二十五分大坂梅田停車場發一番汽車に搭載せば七時二十分神戸に着する割合にして此の汽船便は獨り大坂及び神戸迄に實行するのみならず其他便利なる箇所は總て此方法に依るゝとし而して大坂郵便局と同社との約定運賃は一箇月百二十圓なりと云ふ

○山田に於ける遷宮式及び當日の景況　前日の紙上に皇大神遷宮式の模樣を記載せしが今又勢州山田よりの通信を見るに去る五日は豐受大神宮の遷宮式日にて式の全く終りしは午後十一時の頃おりしも豐受大神宮即ち外宮の在ます邊は内宮と異なりて平坦の上廣ければ拜觀人には一層便おりし左れば大神宮の式日より人出の夥しき幾んど倍あるべく從て宮域の周圍は群集の見物人にて全く充滿し立錐の餘地を止めず儀式は總じて皇大神宮と異りたるゝとなきも唯執物の數少なかりし爲め割合に早く終りを告げたりし全體五日の朝は少しく曇天の模樣なりしも午後一時頃には滿天雲おく晴れ渡りたれば山田市は群集の老若男女は折柄なる一帶の人の流れの其中にありて汗を拭きつゝ浮足にて歩行き廻る樣何とも形容し難く殊に儀式の始まると聞き群集の心皆式場に集りしも宮域の周圍には柵を設け柵外には拜觀人數多立並び後走せのものには式場内の模樣は一向に見ず今ぞ渡御の際なりと聞くも前後左右に押詰めたる人の爲め拍手せんとするも手動かず唯口中にて祝詞を唱ふるに過ぎざる位にて當日山田に入込みし人員は概數二十五六萬に下らず其中三分の二は近郷近在の輩にて其夜直に歸途に就きたるも其餘は何れも由田に宿泊せんとするものおれば旅店と云ふ旅店は滿員の張札をせざる許りなりし又新道新町古市の各遊廓は絃歌の聲宛ら湧くが如く豐川町及び神苑の夜景は實に前代未聞にして豐川町の如きは雪洞燈紅燈其數を知らず往來の通行も容易ならず幸に警察の注意にて怪我人等は散し午前二時〳〵さへ寂々たりと

○清國公使特命全權飛鳥町なるゝと

○自由黨の〳〵今廣告名稱は矢張夫は未だ決し

○日向の三地方も僻遠大同倶樂部舊高鍋、佐土なさん爲め鵜同志會派び申候得共都及び日州同志會最も樂部は三者と申すほど（中略）依て伊東の三家ものゝて全崎縣内の激有志者業家の有志者享受せんと共いよ〳〵味するもの九月の上旬地の諸郡殊面の名義に至ては一達を目的とし且つ同會是は同志會のとは相結て三團體と見えた人々

○列車運轉仕樂屋道會社にては密なるもの機關方の三名不慣のため折

○四條畷の古むかし贈正三終に弟正時を並べて討死

税所篤氏（今ゆる飯盛山の出んとて有志